

理科 7年生 単元名『生物のなかま分け(生物の分類)』授業実践・授業研修	
日時	5月15日(水)2時間目、3時間目
授業者	中村 勝
本時のねらい	多様にある生物の共通点や相違点に着目しながら分類することができる。また、その観点や基準について、他者に分かるように表現することができる。さらに、分類の仕方を他者と共有することで、自分や他者の視点や考え方のよさに気付くことができる。
単元・題材計画	生物のなかま分け(生物の分類)……………2時間(本時1/2時)
授業の実際 (本時の流れ)	前時までで学んできた生物多様性の認識を踏まえ、20もの生物を提示し(それらの共通点や相違点を見いだすための観点や基準を考えてみるよう促しながら)まずは各自で分類させた。その後、各自が考えた分類の仕方について班で説明し合い、班でそれぞれの分類の仕方を共有した。他者の発表をよく聴き、どうしてそのような分類を考えたのか、また内容で分からないことなど質問があれば積極的に聴いて、お互いに学びが深まるよう促すとともに、お互いを尊重するような意見交流の場とした。最後に、自分や他者の考え方のよさや価値について共有し、自分の学びを深めることができたか、振り返りを促した。
事後協議の概要	生物が多様であるのと同様に、分類にも目的に応じていろいろな視点や考え方があり多様であることから、子供達が考えた分類も、お互いそれぞれの考え方を共有したり、認め合ったりしながら学びを深めていた。ただ、子供たち各々が考えた分類が果たして科学的なのかどうかという意見もあった。今回は、受容と共感を促す場面や手立てを講じることを重きに授業を計画、実施してきたこともあり、理科の見方・考え方を十分に働かせていたのかどうか、再考させられるところであった。今後の指導の中で、子供たちが考えた分類の科学的妥当性、さらに先人が考えた系統的な分類の在り方など、先哲的・学術的なことにも触れながら指導にあたっていく必要がある。ほか、協議会では共感的人間関係が人間関係のベースとなるという意見もあり、たいへん参考になるものであった。

